

## 様式 C-19

### 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 6 月 12 日現在

研究種目：基盤研究(C)  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18530367  
研究課題名（和文）中国における社会関連会計の現状と動向についての研究  
研究課題名（英文）Research on the present condition and the trend of the corporate social responsibility accounting in China

研究代表者  
水野 一郎 (MIZUNO ICHIRO)  
関西大学・商学部・教授  
研究者番号：70174034

#### 研究成果の概要（和文）：

本研究は、中国における環境会計、付加価値会計、人的資源会計、CSR（企業社会責任）会計などの社会関連会計の現状と動向を探求することを目的としていた。2006年から4年間をかけて中国においてこうした社会関連会計がどのように誕生し、中国的な特色を持ちつつ、展開されているのかを文献的・理論的に、また実際の企業報告書を収集し、さらに現地の企業訪問調査を踏まえながら研究を進めてきた。

こうした研究活動によって、①研究課題に関する関係文献や資料の収集、②中国現地を訪問することによる会計研究者との交流強化、③中国企業および日系企業のヒアリング調査が実施できた。

#### 研究成果の概要（英文）：

This research aimed at searching for the present condition and the trends of social responsibility accounting in China, such as environmental accounting, added value accounting, human resource accounting, and CSR (corporate social responsibility) accounting. We were able to collect the related literature and data about a research task by such research activities. Moreover, we have strengthened the exchange with the accounting researcher by visiting China. Furthermore, we visited the Chinese company and the Japanese company, and have conducted hearing investigation..

#### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,000,000	0	1,000,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,400,000	720,000	4,120,000

研究分野：会計学、社会関連会計、管理会計、中国会計  
科研費の分科・細目：経営学・会計学（3703）

キーワード：社会関連会計、CSR(企業社会責任)、ハイアール、和諧社会、環境報告書、GRIガイドライン、サステナビリティ、北京松下ブラウン管工場

### 1. 研究開始当初の背景

1994年までの中国における社会関連会計の動向についてはかつて筆者が日本社会関連会計学会で報告したが、当時は企業社会責任会計と人的資源会計の限られた領域しかなく、また文献も数少ないものであった（水野「中国における社会関連会計の現状と展望」『社会関連会計研究』第7号(1995年)参照）。

しかしながら中国における社会関連会計は、この10年間で大きな発展を遂げつつある。社会関連会計の中でも企業社会責任会計、付加価値会計、コーポレート・ガバナンス、人的資源会計、環境会計、非営利組織の会計などの諸領域では多数の著書や論文が公刊され、一部では実態調査や企業の環境報告書も公表されてきている（水野「第7章中国の環境会計－経済発展と環境保護－」（山上達人編『環境会計の新しい展開』白桃書房2005年参照）。また最近では環境会計に関する数冊の翻訳書も刊行され、欧米の研究成果も取り入れ始めていた。

中国の企業会計制度については会計研究者や実務家によって紹介され、研究されることも多くなっているが、社会関連会計の研究領域についてはまだ緒についたばかりであり、本格的な研究が要請されているところであった。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、中国における環境会計、人的資源会計、企業社会責任会計などの社会関連会計の現状と動向

を探究することである。社会関連会計とはまだ耳慣れない用語かもしれないが、社会関連会計学会が創設されてすでに20年が経過し、わが国の会計研究領域では定着した概念となってきた。社会関連会計学会では、環境会計だけではなく、付加価値会計から人的資源会計、非営利組織の会計、公益法人会計、健康や医療に係わる会計、さらにソーシャル・アカウンタビリティなどの会計の様々な社会関連的側面が考察され、分析され、研究されてきた。

こうした現代の中国における社会関連会計の現状を全体として把握し、その諸領域の内容を体系的に研究しようとするのが、本研究の課題であった。

### 3. 研究の方法

(1)研究の方法として、まず中国の社会関連会計に関する中国と欧米の文献・資料の収集活動を継続し、強化していくことにした。とくに中国における社会関連会計の研究文献は、少なく、環境会計、人的資源会計、企業社会責任会計などの領域を中心にして精力的に収集し、整理することが必要であった。日本では中国関係の図書は文学、社会、政治、経済が中心で会計文献は手に入れることが難しいため、中国を訪問した際に新華書店や財政経済出版社等の出版社の書店を訪れ、直接的な購入もしてきた。また中国の大学において使用されている会計テキストを系統的に収集し、社会関連会計の内

容に注目し、これらを日本のテキストと比較検討した。

(2) こうした文献・資料収集過程で最近、整備されてきた環境保護に関する法律や条令、規範も収集し、整理した。また宝山製鉄会社やハイアールなどの中国の上場企業では、最近環境報告書あるいはCSR報告書が公表されはじめたが、これについても収集し、それらの特徴を分析した。「GRI ガイドライン」の中国語訳がなされ、こうした社会・環境報告書が広がる可能性も存在していたのである。

(3) こうした文献・資料収集に加えて、中国現地を訪問して研究者との交流、および中国企業や日系企業のインタビュー調査も研究方法として計画した。これまでの研究交流や大学間交流で関係のある大学を訪問し、会計研究者との意見交換も図ってきた。

#### 4. 研究成果

4年間にわたる本研究によって、(1)研究課題に関する関係文献や資料の収集、(2)中国現地を訪問することによる会計研究者との交流強化、(3)中国企業および日系企業のヒアリング調査などについては、ほぼ計画通り実施できたと思われる。しかし中国企業と会計環境の変化が激しく、社会関連会計の現状と動向を適確に捉えるのはかなり難しいというのも現状である。

(1)については著書や学術雑誌の関係論文だけではなく、上場企業で公表され始めた環境報告書あるいはCSR報告書も可能な限り収集してきた。(2)については、中国社会科学院や北京工商大学、天津财经大学、遼寧大学、復旦大学、湖南大学、合肥工業大学などの研究者との研究交流も実現してきた。合肥工業大学と湖南大学からは

客座教授を拝命し、2006年より年に一度、これらの大学で講演をしてきた。

(3)については、中国を代表する巨大家電メーカーであるハイアール(海爾)集団と日本的経営の特徴を典型的に保持し、付加価値会計を実行し、CSR報告書の公表などを積極的に進めてきた京セラをとくに取り上げて、社会関連会計の立場から両社の経営システムの比較研究を一層進展させ、一定の結論を導きだした。また北京ではパナソニックの合弁会社である北京松下カラーブラウン管工場を訪問し、その日本的経営の移転や定着の程度について調査研究を実施し、図書①所収の「中国における日本的経営の可能性と展望—北京・松下彩色顕像管有限公司を事例として—」にまとめた。その他、上海のサントリー、パナソニック、パソナ、キリンなどの日系子会社を訪問調査し、その日本的経営の移転や定着の可能性、および社会関連会計の実施状況などについて調査してきた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

① 水野一郎「ハイアール(海爾)の経営管理システムについて—中国の巨大家電メーカーの実態を探る—」関西大学経済・政治研究所『セミナー年報2009』91-100頁 査読無 2010

② 水野一郎「日本企業の中国進出の動向と課題」関西大学経済・政治研究所『セミナー年報2007』143-155頁 査読無 2008

③ 水野一郎「付加価値管理会計の展開—京セラアメンバー経営を中心として—」『會計』(森山書店)第173巻第2号 84-94頁 査読無 2008年2月。

④ 水野一郎「現代中国における管理会計の動向と特質—財務管理制度との

関わりの中で一」『関西大学商学論集』  
第 51 巻第 1・2・3 号合併号  
263-276 頁 査読無 2006 年。

⑤ 水野一郎「現代中国会計制度の発展  
と特質－「企業会計準則」と「企業財  
務通則」の改訂を中心として－」『會  
計』 第 169 巻第 6 号(森山書店)17-28  
頁 査読無 2006 年。

〔学会発表〕(計 4 件)

① 水野一郎「ハイアール(海爾)のSBU  
管理の意義と特徴」日本原価計算研究  
学会第 35 回全国大会(一橋大学)2009  
年 9 月 7 日。

② 水野一郎「『和諧社会』と中国の社  
会関連会計」日本会計研究学会第 67  
回全国大会(立教大学)2008 年 9 月 9  
日。

③ 水野一郎「付加価値管理会計の展開  
－京セラアメンバー経営を中心とし  
て－」日本会計研究学会第 66 回全国  
大会(松山大学)2007 年 9 月 2 日。

④ 水野一郎「現代中国における管理会  
計の動向と特質－財務管理制度との  
関わりの中で－」日本管理会計学会関  
西中部部会(甲南大学)2006 年 7 月 1  
日。

〔図書〕(計 2 件)

① 水野一郎編『上海経済圏と日系企業  
－その動向と展望－』関西大学出版部  
218 頁 2009 年。

② 明神信夫・笹倉淳史・水野一郎編『ア  
カウンティング－現代会計入門－(三  
訂版)』同文館出版 198 頁 2007 年。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

水野 一郎 (MIZUNO ICHIRO)

関西大学・商学部・教授

研究者番号：70174034